

THE 高校演劇

サイト内検索



創作脚本 > 新世界

ホーム お知らせ 創作脚本 フォーラム THE高校演劇の歩き方 ファイル共有スペース

メインメニュー

[ホーム](#)

[お知らせ](#)

[創作脚本](#)

[フォーラム](#)

[THE高校演劇の歩き方](#)

[ファイル共有スペース](#)

[[全て表示](#)]



[全て表示](#) > [地区大会出場作品](#) > [新世界](#)

PREV

NEXT

ログイン

ユーザー名:

パスワード:

[パスワード紛失](#) | [新規登録](#)

カテゴリの一覧

[全国大会出場作品 \(0\)](#)

[春季フェスティバル参加作品 \(0\)](#)

[ブロック大会出場作品 \(2\)](#)

[県大会出場作品 \(13\)](#)

[地区大会出場作品 \(4\)](#)

[その他の作品 \(3\)](#)

[作者と連絡が取れない作品 \(0\)](#)

タグ

SF おバカ ヒロイン ヒーロー
ファンタジー 俳句 停電
劇中劇 友情 変態 家族 居残り
心霊 思い出 性同一性障害 恋愛
感動 戦隊 星空 演劇部 漫才 社会問題 落語 震災

お問い合わせ

THE高校演劇は宮城県高等学校演劇協議会が運営いたしておりますが、[ユーザー登録については、県内の方にこだわって](#)

新世界

Posted by [Hayashi](#) on 19.03.17

「新世界」

common to booing

登場人物 生徒 A (相馬永輝) 兼 大村先生
生徒 B (加藤あやと)
学校長
椎名先生 (Aの担任・Bの顧問)

卒業式前日、予行練習後の放課後の教室

相馬 しかし、結構ありますね、この進路系の雑誌。こうして処分するならば早めにやっておけばよかったんじゃないですか。

椎名 そうだよなあ……。すまん、手伝わせてしまって。でもな、卒業式だろ。多くの保護者が来るってことを考えると、できるだけ教室は整理いた方がいいかなって思ってさ。

相馬 だったら、大掃除の時にこっちもやっとならばよかったんじゃないですか、椎名 うん。確かにそうなんだけど、大掃除の時はさ、まあ別に雑誌くらいはあも平気かなって思ったんだよ。でもさ、さっき隣の先生の大村先生のクラスを見たらんかももう何にもありませんーみたいに片付いてるんだよ。それみたらさ、何か雑誌たちの存在がだんだん気になってきて。

相馬 ……いや、もう別にいいんですけどね。

椎名 じゃあ文句言わないでやってくれって。どうせやるなら、気持ちよくや方が達成感もあるぞ。

相馬 ありますか？ この作業に達成感なんて。要するにいらなくなった雑誌を縛ってゴミ捨て場に運ぶ。しかも階段があるから台車で運べないので何度か歩復する。だから足は疲れるし雑誌の重さで手も疲れる。ついには腕が折れて心る。これのどこに達成感があるんですか。

椎名 何事も苦労した後は自分をほめてやるもんだよ。よくやったぞ自分！って

りません。ご意見・ご質問などがありましたら、[こちら](#)まで、メールにてご連絡下さい。大会結果などは[みやぎの高校演劇](#)でご確認下さい。

そして終わった後の一杯のビール・・・大人の醍醐味ってやつだな。

相馬 あの・・・一応言っておきますが、僕、未成年なんで終わった後の一杯というのは楽しめないんですけど。

椎名 だから、大人の醍醐味って言ったろ。

相馬 つまり高校生は楽しめないってことですね（ため息）。でも先生、終わった一杯で満足できるって、何か悲しくないですか？ていうか、むしろ虚しいか・・・。

椎名 だから、そういうものも込みで大人の醍醐味なんだよ。相馬もいずれわ時が来る。

相馬 正直わかりたくない気もしますけどね。はい、じゃあこれで全部縛り終わったと。

椎名 ご苦労さん。じゃあいよいよゴミ捨て場にもって行くか。

二人、雑誌を運んで行こうとして

椎名 あっ、ちょっと待て！（ロッカーに近づき）確かこのロッカーの陰に..あ...やっぱりな...

相馬 何ですか先生。何となく知らない方がいいことのような...

椎名 冴えてるな。まあ、とりあえず百聞は一見にしかずだ。ほら。

相馬 いや、知らなかったことにします。よってこの雑誌を運ぶことだけに専念す。

椎名 目の前の現実からいつまでも目をそらしてはいけないぞ相馬。パンドラの開けた時、それが新たな世界の始まりなんだ。さあ、勇気をもって！

相馬 いいえ、結構です。

椎名 だめだなあ..... そういう消極的な姿勢は人生の可能性を自ら否定することるんだぞ。あくなき好奇心と探究心が人間を育てるんだ。かの有名な科学者の相馬先生。要するにまだあるんですよ、雑誌とか。その陰に。

椎名 見もせずにわかるとは、大した奴だな相馬。

相馬 ありがとうございます。うれしくないですけど。

椎名 じゃあそういうわけだから、取り出すの手伝ってくれ。

相馬 はあ、しかしなんでこんなところに雑誌が埋もれてるんですか。いや、それ何でここにあるって気づくんですか。ていうか、どうせ気づくならもっと早い気づいてほしいですよ。目の前にある大量の雑誌を何度も何度も縛って、もう上縛るものはないよな、じゃああとはこれを運ぶだけ..... とか思ってからのこ見！そういうのがキツいんですよ。

椎名 確かに..... 言いたいことはわかる。でもな相馬、あとから気づいてしまったよなあ。すぐに気がつかないのは、多分年のせいだな。

相馬 そんな年じゃないですよ先生。

椎名 いや、確かにうら若き花の二十代だけど、それでも忍び寄る年には逆らえていうか。

相馬 うら若きって普通、女性に使う言葉ですよ。

椎名 そんなことも知ってるのか。大した奴だな相馬。

相馬 ありがとうございます。うれしくないですけど。

椎名 しかし、これ雑誌じゃなくて大学案内用のががきの束だよな。どうしてなに余ってるんだ。誰も使ってないのかよ（と、言って一枚引き抜く）。

相馬 さあ、どうなんですかね。それより、これちょっと引っかかってますよねとかして抜き取らないと。って、先生もはがき見てないで手伝ってください。

椎名 あーごめんごめん。どれ、じゃあ、せーの。

相馬 先生、これ抜けないっすよ。あきらめましょう。

椎名 何言ってるんだ。ここまできてやめるわけには.....抜けない。
相馬 別にこれくらいあっても問題ないですよ。どうせ見えないし。
椎名 でもなあ...それでは俺の気持ちが...。
相馬 うら若き二十代はそんな小さいことにこだわらないですよ。
椎名 そんなこと言ってやりたくないだけだろ。そういう消極的な姿勢がだな・
(引き抜こうとして) ん?これCDじゃないか。
相馬 あ、ホントだ。これって英語の問題集についてたヤツですかね。
椎名 これが引っかけって抜けなかったのか.....。しかし、そんなCDをこんな
らで見つけるとは.....英語の成績が悲惨なハズだよ(ため息)。
相馬 いや、これって英語のCDじゃないんじゃないですか。パッケージがつい
いし、誰かの私物かもしれないですよ。ひょっとしたらCDじゃなくてDVD
性もありますね。
椎名 えっ。しかしかといって勝手に流したり見たりはできないし.....。
相馬 じゃあ、明日みんなに聞いてみたらどうですか。
椎名 うん.....いや、まあ、考えとくよ。
相馬 ?
椎名 それにしても、これではがきが抜けるってワケだ。ほらよっと。
相馬 うわっ、なんかホコリが.....ゲホッ。
椎名 まあ、はがきは捨てるとして、あとは掃除だな。
相馬 ますます仕事増えてるじゃないですか。
椎名 まあまあ、掃除は俺がやっておくから、相馬は雑誌捨てて行ってくれ。
相馬 それってズル.....、わかりましたよ。その代わり、もう何も見つけな
いださいよ。これ以上仕事増えたら、家に帰れない気がします。
椎名 わかったって。掃除が終わったら俺も雑誌運ぶから、まず先に運んでい
よ。
相馬 わかりました。

椎名、相馬が教室を出て行ったのを見て、改めてDVDを手に
そして、回想。

椎名 加藤...

九ヶ月前。
加藤が勧誘活動をしている。

加藤 演劇部どうですかー? 今なら即キャストになれますよー?

加藤は標的を見つける。

加藤 あ、あのさ演劇部興味ない?いまね、文化祭でやる劇の練習してるん
ど.....あ、そうかあ。ごめんな。

加藤 みんなで一緒に舞台を作ろう。楽しいですよ!

加藤 やっぱ一人でやってやるか.....ロミオとジュリエット。

相談室。椎名先生が座っている。
相馬が入って来る。

相馬 ...おはようございます。

椎名 おう、相馬。おはよう。ま、座ってくれ。

相馬 はい、失礼します。

相馬は座る。

椎名 まずは今日もよく来た。これで出席日数は稼げたな。

相馬 ...はい。

椎名 でさ、前にも聞いたけどさ、家でどうしてるんだ相馬。

相馬 いえ、特には...

椎名 体調とかそういうのは、大丈夫なのか？

相馬 はい。

椎名 そうか...。相馬は、その、ずっと授業には出てないよな。やっぱり...教室するのは難しいか？

少しの沈黙

相馬 ...すみません。

椎名いや、高三で受験もあるし、授業を受けてないのが心配でさ。ていうのままだと卒業だって厳しくなるしさ。

相馬 すみません。

椎名 いや、あやまらなくてもいいんだけどな。

相馬 ...。

椎名 卒業はしたいと思ってるんだよな。

相馬 (軽くうなずく)

椎名 じゃあさ、ちょっとずつでいいからプリントやっていこう。卒業のため、テストは受けてほしいし、だったら、何も勉強しないってわけにはいかないし。

相馬 ...どうせ何やっても変わりませんよ。

椎名 何言ってるんだよ。今からでも頑張れば、大学にだって十分行けるぞ？

相馬 いや、僕には無理です...

椎名 そう簡単に決めつけるなって。もう少し落ち着いて考えてみたらどうだ？

相馬先生は努力は必ず報われるって思ってますか？

椎名 そりゃあ、絶対とは言わないけど。ある程度は報われると思ってるよ。

相馬 じゃあ僕と正反対だ。僕は、努力の結果も結局は才能だと思うんです。

椎名 どういうことだ？

相馬 努力したから成功したんじゃないくて、初めから才能があつたままそのミングで開花しただけってことです。

椎名 それなら、相馬にも秘められた才能があるかもしれないよな。

相馬 ないですよ僕には。何というか、わかるんです。他の人がなんなくこなせとが僕はできなかつたりするし。

椎名 そんなの、わからないじゃないか。

相馬 先生にはわからなくても、僕にはわかるんです。

椎名 相馬の考えは難しいな。

相馬 先生も、感覚でモノを言う時ってありますよね？ つまりは、そう言うことです。僕には何も無いって。

椎名 いや、でもなんかあるだろ？ 得意なこととか。

相馬 ですから、ないですよ。そんなの。

椎名 じゃあ、好きなこととか。

相馬。

椎名 興味あることとかさ。
相馬 それだったら...。
椎名 え、なにになに？
相馬紙飛行機かな。
椎名 へえー、紙飛行機ね。
相馬 まあ、あえて言うなら...ですけど。
椎名 紙飛行機かぁ。で、なんで紙飛行機が好きなんだ？
相馬 なんですかね...。小さい頃からよく作って飛ばしてたんです。翼のかするとよく飛ぶんですよ。
椎名 詳しいな。俺も子供の頃よくやったよ。でも、あんまり飛ばなかったな。
相馬 遠く飛ばすには作り方だけじゃなく、角度とかも大事なんです。
椎名 ホント詳しいな相馬。大したモンだよ。将来紙飛行機で食っていけるないか。
相馬 そんなのあり得ないですよ。
椎名 ハハ...まあな。でも、何か大会とかはあるんだろ。
相馬 ええ、まあ一応。出たことはないんですけど。
相馬 おお、やっぱりあるんだ。
相馬 メジャーな競技じゃないんで知られてないですよ。そんなもんだと思います。
椎名 そういう趣味から自分に自信を持っていけるといいんだがなあ。
相馬 ...。
椎名 まあともかく、焦っても仕方ないんだが、大切な時期なのは事実だから。っとでも勉強しておくんだぞ。わかんないところとかあれば、先生方に聞いてほしいんだし。
相馬 (軽くうなずく)。
椎名 実は今ここに数学のプリントあるんだけど、残ってやっていくか？
相馬 ...。
椎名 じゃあうちに持って帰ることにするか。
相馬 はい。(時計を見て) じゃあそろそろ僕は帰ります。
椎名 そうか。じゃあ、気をつけてな。

相馬が出て行く。

放課後の演劇部の部室。加藤が一人芝居をしている。

椎名先生がいることに加藤は気づかず芝居を続ける。

加藤 「あの目が夜空に輝き、星がその顔に納まってもよいのではないか？陽のあびた燈火ながら、その頬の輝きには星も恥じらおう、そして夜空にかかる二は隈なくあたりを照らし出し、昼とも見紛う明るさに鳥が囀ることだろう。見手に頬を預けている！ああ、その手を包む手袋になり、その頬に触れることがら。」

椎名・加藤 わっ！

加藤 先生、いつからそこに。でもちょうど良かった、ちょっとジュリエット役でもらってもいいですか？なかなかうまくいかなくて。

椎名 おういいで。でも俺は男だから、ジュリエットというよりはジュリオットな(笑)。

加藤。

椎名 で、どこからやるんだ。

加藤 じゃあ、続きからお願いします。いきますよ。「その頬に触れることが出

ら。」

椎名 「ああ。」

加藤 「何か言ったな。おお、もっと言ってくれ、美しい天使！頭上にあって月輝くその姿は、正に翼を持つ天の使、後退りして目を見張って仰ぎ見る人間ど上を、徐に流れる雲に乗り、天空を滑り行くかのよう。」

椎名 「おお、ロミオ、ロミオ！なぜあなたはロミオなの？」

加藤 先生、なかなか上手ですね。可愛くはないですけど。

椎名 別にいいだろ、男なんだし。で、文化祭はロミジュリやるのか？

加藤 はい、そのつもりです。

椎名 一人でか？

加藤 そうです。あ、先生も一緒に出てくれますか？

椎名 いや、普通顧問は出ないだろ。それより、文化祭の申請書類出すの忘れるよ。

加藤 あーはい、わかりました。

椎名 しかしさ、ロミジュリって一人でできるのか？

加藤 もちろんですよ！左半身がロミオ。右半身がジュリエット。これでやりま

椎名 (圧倒されて) そ、そうきたか。

加藤 最初は上半身がロミオ。下半身がジュリエットでいこうと思ったんです。

泰司にその話ししたら止められました。

椎名 (ボソッと) グッジョブ泰司。

加藤 面白いと思ったんですけどね。あ、じゃあ忘れないうちに申請書類貰ってす。

椎名 じゃあ俺はこれから職員会議だから、帰る時窓の鍵と電気よろしくな。んおつかれ。

加藤 お疲れ様でした。

加藤は部室を出て行く。

職員会議。先生方の雑談。

椎名 はあ……。・

大村 どうしたんですか椎名先生？

椎名 いろいろ心配なことがありまして。

大村 これからの会議のことですか？

椎名 え、あ、それは……。

大村 俺は少し極端な気がするな。

椎名 何がですか？

大村 何ってそりゃあ……。

椎名 (苦笑い)大村先生ってそんなこと言うんですね。

大村 まずかったですか？

椎名 いや、いいと思います。

大村 (時計を見て) そろそろですね。じゃあ俺司会なので。

椎名 あ、はい。

ドン、ドン、ドンドンドンドンドンドンドン、ドン！

校長現れる。職員起立。

校長 ご苦労、諸君。

全員 はい。

校長 これより、いつものアレを行う。教育基本法第十三条、読みなさい。の。

全員 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの責任を

自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

校長 うーん、言えていない者がいるな。それでも君たちは教育者か。生徒をやれコレを出せと言っておきながら教師がこのありさまでは、生徒に失礼なのか！ え？ 生徒は本気で授業に向かってきている。君たちも本気で生徒とい

いなさい
大村 それではこれより、職員会議を始めます。

話が進んで

大村 ええ、では次に本校に若干名いる不登校生徒について何か報告のある：いらっしやいますか。（周囲を見渡して）では、椎名先生。

椎名 はい。今、私のクラスの相馬永輝という生徒が四月から一度も授業に：ないという状況が続いておりまして、正直このままでは卒業が怪しくなっ：た。

校長 なに？ それはよくない。実によくないぞ。留年してしまうというの：も周りの人間もつらいものだ。不登校で留年というのだけは避けてほしい。皆：して是非もう一度学校に来られるようにしてくれ。わかったかね。

椎名 （ボソリと）言うほど簡単じゃあないんだよな。

大村 （小声で）椎名先生！

校長 ……………（にらみつける）

大村 では最後に何か連絡のある先生はいらっしやいますか。

シーン

校長 では私から。

大村 どうぞ。

校長 私がこの学校に来てからしばらくたったが、良いところと悪いところ：てきた。今日は一つだけ。この学校には無駄に部活が多いが、これは先生方の：大きくしている。そこで、少人数の部については廃部の方向で話を進める。確：部は三年五組十二番坂下勉と三年七組二十七番中沢武士の二人、華道部は二年：十五番平沢美咲の一人、演劇部は三年八組六番加藤あやとの一人だったな。

椎名・大村 なんだこの記憶力は！

校長 私は無駄なものは容赦なく省く。君たちも省かれないう、気をつけ：え。

大村 こ、これにて職員会議を終了します。

校長 明日からも頑張りなさい。

全員 ありがとうございます。

ゾロゾロと動き始める

校長 椎名先生、待ちなさい。

椎名 何でしょうか、校長先生。

校長 君、さっき『言うほど簡単じゃない...』とか言わなかったか？

椎名 （ギクリ）え、そうでしたか？

校長 まあいいのだが。ところで君、不登校の子には真摯に対応しているの；

椎名 え、ああ、はい。

校長 私は無駄なものは省くが、生徒を省くことは絶対にしない。君も、誠
って不登校の子を説得してくれ。そして私や他の先生方にできることがあれば
言ってくれ。我々は学校単位で君をサポートするぞ。では、しっかり頼んだぞ。

椎名 はあ、分かりました。

校長消える

椎名 なんて地獄耳なんだ・・・・・・・・・・。

校長 聞こえてるぞ。

後日の演劇部部室。

椎名 ご苦労さん。それで、申請書は書けたか、加藤。

加藤 あっ、持ってきました。（と言って渡す）。

椎名（申請書を見て）うん。で、これなんだがな、ちょっと困ったことになっ

加藤 どうしたんですか？

椎名 うん。まあ、ちょっとな...

二人座る

椎名 実はな・・・・・・・・・・廃部になるかもしれない。

加藤 何が？

椎名 演劇部が。

加藤・・・・・・・・・・何が？

椎名・・・・・・・・・・演劇部が。

加藤 えっと、つまり？

椎名 文化祭どころか、コンクールも多分出れない。

加藤どうして、廃部に決まったんですか？

椎名 校長先生は部員が少ないからって言っていた。

加藤 ちょっと待ってください。あんまり急すぎてよくわかんないんですけ
んでそんなことになるんですか。

椎名 部員が少ない部は省くとかって言い出してな。言い出したら本気だか
な...

加藤 そんな！困ります！なんでそうなるんですか。先生方から反対意見と
いんですか。俺たちの意見と違って聞かないんですか。

椎名 言い出せる感じじゃないんだよな。なんかもう即決で。

加藤 そんな...じゃあどうしたらいいんですか俺は。

椎名 部員を増やすしかないな。

加藤 急に増やせと言われても・・・実は今だってちょくちょく勧誘はやってる
すよ、でも全然...。何すれば部員って入ってくれるんですか？

椎名 そうだなあ、まず何よりも相手に興味を持たせないとな・・・たとえば、
シを配ってみるのはどうだ？

加藤 それはもちろん、やりますけど。普通すぎてあんまり効果ないんじゃない
すか？

椎名 じゃあ、説明会を開くとか？あ、でもそんなに人が集まらないか。じゃあ
門前でターゲット絞って声かけてみるとかはどうだ？

加藤 それもやってます。でも、みんな興味持ってくれなくて...

椎名 あ、じゃあいつそのこと、校門前で演劇やってみるってのはどうだ？

加藤 ……(悩んでいる)。

椎名 って、さすがにそれはないか。

加藤 …やってみます。

椎名 え？ やるの？

加藤 はい。まかしててください！ 俺の超クールな演技で、二十人くらい落としますよ。早速

明日からやってみます。

椎名 お、おう、その意気だ。頑張れよ。

舞台袖から紙飛行機が飛んでくる。

紙飛行機が落ちると相馬がでてきて、それを拾い上げる。

相馬は舞台袖に向けてフォームを確認しながら紙飛行機を投げる。

相馬は紙飛行機を追い、はける。

翌日、朝の昇降口。加藤が勧誘活動をしている。

加藤 演劇部どうですかーあ、そこのあなた！ 演劇興味ないですか？ ・ ・ ・ ない、んね急に。あ、そこのあなた！ 演劇部興味ないですか？ 今なら即、ジュリエット文化祭で出られますよ。 …… やりたくない、ごめんね、時間取らせて。 やっメか…。 よし、こうなったら、先生が言った方法でやるか。

周りを見渡して。

加藤 俺の名前は、加藤あやと。この学校の演劇部部長だ。だが今、廃部の危機んしている。そして、今の所、勧誘は失敗続き。でも、そんなところで諦めない！ さあ、立ち上がれみんな！ …あっ、部員俺一人だった。

深いため息をつく。がっくり。そして叫ぶ。

加藤 なんでだー。

椎名 どうしたんだ加藤 ……

加藤 先生、なにやっても部員増える気がしません。何で入ってくれないんです椎名 いや、まだ始めたばかりだろ？ 諦めるのは早いって。

加藤 でも誰一人として興味を持ってくれないし、せっかくの作戦も、軽蔑されて見られているような気がします。

椎名 あれはお前が悪いんじゃない、作戦を考えたやつが悪い。

加藤 考えたの椎名先生なんですけど。

椎名 ……とすると演技の問題かなあ。

加藤 先生！

椎名 まあまあ。うーんそうだなあ。もっところ、アピールをするというか…。

そうだ。例えばインパクトがあって、ドラマチックでなおかつ熱い展開とかあ、誰の心でも動かせると思うけどな。ほら、映画なんかでもさ…。

加藤 アピール…インパクトがあってドラマチックでなおかつ熱い展開 ……まよ…。

椎名 加藤？

加藤 先生！。俺とびっきりの作戦を思いついたのでこれから準備に取り掛かります！ てなわけで、放課後の部活動はしばらく休んでいいですか？

椎名 えっ？ ああ、別にいいけど。だけど、警察のご厄介になるようなことはすよ。

加藤 何言ってるんですか。大丈夫ですって、まかせてください。

加藤 ははける。

椎名 大丈夫かな…。

後日、相談室。椎名が座っている。

相馬が相談室に入ってくる。

相馬 失礼します。

椎名 お、おはよう相馬。まあ、すわってくれ。

相馬 もう夕方ですよ。こんにちは。

椎名 あーこれ癖なんだわ。昼でも夜でもおはようございますってな。

相馬 へえ、そうなんですか。

椎名 文化部内の暗黙の了解なのかなあ……。あ、いや俺、演劇部の顧問だから。

相馬 へえ、そうなんですか。

椎名 (ボソッと) やっぱ興味ないか…。

相馬 …話して何ですか。

椎名 あーそうだった。えっと、相馬。あんまり休み過ぎると卒業がヤバいって前にしたよな。

相馬 ……………僕は、卒業できないんですか？

椎名 いや、そこまで急につて訳でもないんだが。

相馬 ……もし、卒業できなかったらどうなるんですか。

椎名 もう一年、高校三年生をやり直すか、サポート校とか通信制の高校に行く校の卒業資格をとるかだな。そういう話って、相馬もきいたことないか？。

相馬 いえ…。

椎名 そうか…。まあ急には決められないだろうけど、状況次第では何か決いとな。

相馬 …ほかの学校とかって、何か面倒くさいな。

椎名 でも実際そういうヤツもいるし、それでちゃんと頑張っているヤツもな。ま、でもせっかくウチの学校に入ったんだから、やっぱりみんなと一緒にてほしいけどな。

相馬 ……僕、どうすればいいですか？

椎名 どうしたいんだ相馬は。

相馬 えっ。

椎名 結局は、相馬が選びたいものを選ぶべきだと思う。

相馬 ……そう、ですよね…どうすればいいんだろう…。

椎名 すまん。急には決められないだろうけど。でもな、最後に自分の人生をるのは自分自身なんだ。そうしないと、進んだ道に納得できないだろ？

相馬 ……。

椎名 うーん…やめやめ。シリアスなのは得意じゃねえんだ。

椎名先生はポケットから四つ折りにしたパンフレットを取り出す。

椎名 お前、これ出てみないか？

相馬 ……あ、これ。今度開かれる紙飛行機大会の…。

椎名 そう、二週間後の土曜日、市民広場で開かれるんだ。

相馬 いや、無理です僕は。こういうのってなんか。

椎名 やっぱそうか。でもな相馬あ、もうエントリーしてしまったんだよな。

相馬 えっ、何でそんな。勝手じゃないですか。

椎名 すまんすまん。でも、まだキャンセルできるから大丈夫。ま、いざと俺が出るって手もあるしな。

相馬 そんな。何の練習もせずに出るなんてふざけてますよ。

椎名 相馬に教えてもらえば、少しは記録も出るかもしれないだろ。まして紙飛行機を作るのであればなおさら…。

相馬 それは反則なんじゃないですか。紙飛行機は自作でないとダメだと思っすが。

椎名 そうなのか？。じゃあ今から紙飛行機作り教えてくれよ。

相馬 先生…本気なんですか。恥かくだけですよ。やめませんか。

椎名 でも意外に楽しそうだしさ、これ。紙飛行機かぁーしばらくやってないかどうというのが飛ぶとかってもう忘れたな。

相馬 …。

椎名 紙飛行機飛ばすのって、楽しいんだろ。

相馬 …はい。

椎名 じゃあ、せっかくだからやってみないか？

相馬 でも大会なんて。

椎名 記録とかはどうだっていいだろ、初参加だし。やってみてダメだった次頑張ればいい。本当に好きなら、だったら大丈夫だよ。

相馬 本当に好きなら…。

椎名 出たら絶対楽しいと思うぞ、俺は。

相馬 …そうかもしれません。

椎名 出るか？

相馬 …はい。

椎名 よし、よく言った。じゃあ、本選の前に予選があるらしいから。受付は朝半だな。

相馬 え、あ、はい。

椎名 じゃあ集合は……九時でいいか。九時に噴水の前のところで。遅れるなよ

相馬 はい。…何か急だな…大丈夫かな。

二人はける。

加藤は携帯電話で通話している。

加藤 ……そう、それでさ…どうだ？ 協力してくれるか？ ……よし、じゃあ…ん、そう、ビデオカメラ……悪い、助かる…ああ、要らなくなった映像はどうも構わん……じゃあな…。

加藤はまた別の人に電話をかける。

加藤 ……あ、須藤？ ……えっと、ちょっとやってもらいたいことがあって…。

飛行機大会

《これから本選に入ります。選手の皆さんは集まってください》

椎名 そろそろだな。

相馬 凄い人の数…なんかさっきよりお客さん増えてないですか…。

椎名 そう固くなるなよ。緊張したところで何も良いことないって。

相馬 いや、緊張するなって言われても…。

椎名 そんなこと言いつつ、予選は突破できたじゃないか。ここまで来たら、は気楽にいけて。

相馬 いや、だからこそなんですよ。僕みたいなのが予選突破して、残ったと戦うなんて考えられないですよ。そう思ったら…。

椎名 そんなこと言って、予選突破の時あんなに喜んだじゃないか。

相馬 いや、あの時はうれしかったです。まさかそんなことがあるなんて…。残ったメンバーってみんなこういう大会で上位の常連らしいんですよ。記んなすごいし。そんな中でポツと出の僕なんか…。

《現在のトップは十番の田中洸哉選手、記録十八・四メートルです。》

相馬 あ、あそこにいる江藤って人なんて、四年連続県一位ですよ。そんなやってる人の中に、趣味でやってただけの僕なんかがいっていいんでしょうか…。

椎名 そんなこと言ったら、あいつらだって趣味なんだろう。紙飛行機では食けないからな。

相馬 でも…。

椎名 まあ、精一杯やればそれでいいと思うぞ。一生懸命やってる人を誰もしいとは思わないよ。

《次は十一番江藤真司選手です。では、江藤選手の第一投です》

相馬 あ、先生、あの人ですよ。

椎名 おっあれか。さてさて、トップクラスの腕前とはどんなもんかな。

《ただいまの記録、三十・一メートルです！続いて、第二投です。》

椎名 あー、すげえなあ。

相馬 三十メートル超え、ですね。

椎名 一気にトップだな。これが四年連続優勝の実力か。

相馬 僕、三十メートルなんて一度も飛んだことありませんよ……良くて半か行かないか…。

椎名 記録なんて気にしないで楽しめって。

相馬 でも、全然飛ばなかったら……。

椎名 やってみなきゃわかんないだろう。あっ。

《ただいまの記録……十二・三メートルです。よって、一投目の三十・一メートル江藤選手の記録となります。》

椎名 ほら見たか、あいつだって失敗するんだ。と、言うことは、逆に相馬いつを超すくらい飛ばせる可能性があるかもな。

相馬 いや、さすがにそれはないです。

椎名 ほら、相馬の出番だぞ。行って来い。

相馬 あー、もうか。

《次は、十二番相馬永輝選手です。》

椎名 相馬、落ち着いて飛ばすんだ！

相馬、紙飛行機を飛ばす。

椎名 お一つ、あ、ああ……。

《ただいまの記録……五・一メートルです。》

椎名 気にするな、あと一回残ってる。

相馬 十メートルいかないなんて、僕だけですよ、ああ（しゃがみこむ）。

椎名 何言ってるんだよ。結果はいい方が残るんだろ、だから思い切っていけ。

相馬 思い切ってやったら、力入り過ぎてかえって飛ばないんですけどね。

椎名 どうやら頭は冷静なようだな。

相馬 そっか…（深呼吸して）。じゃあ、やってみます。

相馬、紙飛行機を飛ばす。その様子を椎名と眺め、無声で演技。

《……第十二回県紙飛行機大会は、江藤真司選手の大会五連覇となりました。おん、本当にお疲れ様でした！》

椎名 お疲れさん。でもよくやったよ、だって表彰台だぞ（肩をポンとたた

相馬 でも一位とはずいぶん差がありますけどね。やっぱり県一番って凄いね。

椎名 ちゃっかり三位を取っておいてよく言えたもんだな。

相馬 偶然ですよ。やってみたら意外と……みたいな。

椎名 嬉しそうだな相馬。……大会参加して、良かったな。

相馬 はい。出てよかったです。さっき一位の江藤さんに声かけられたんで「研究と練習を積み、もっと飛ばせるようになるから、次の大会でも頑張るよ」って。

椎名 すごいなあ、県一位の人と知り合いか。やったな。

相馬 それもありますけど……。

椎名 なんだ、他に良いことあったのか？

相馬 自己ベストを更新できたってことですね。なんか、自分の限界を超えた！って気分です。

椎名 ちょっと大袈裟だな。

相馬 あと…クラスの人とちょっと話すことができました。

椎名 え、お前……誰と話したって？

相馬 えーと、康介くんって人です。弟さんが出るってことで来てみたい

椎名 康介って、うちのクラスの西嶋康介だよな。ホントか？

相馬 はい。で、話してみたら…紙飛行機の話とかで意外と盛り上がりまし

椎名 ……それで、どうなったんだ？

相馬 いや、ただそれだけです。……でもあんなに難しいことだと思ってたのに……。

椎名 ……？

相馬 ああ、こっちの話です。……じゃあ、そろそろ僕は帰ります。

椎名 あ、ああ。

相馬、ゆっくり歩き出す。そして振り返って(椎名の方を向いて)。

相馬 先生。今日はありがとうございました。

椎名 おう。

校長室。校長が高いところに座っている。

加藤 失礼します！

校長 誰かね君は。私に何か用でも？

加藤 あの.....突然ですが今日は校長先生にお願いがあって来ました。

校長 お願いとはなんだね。

加藤 その前に一つ確認があります。演劇部を廃部にすると言ったのは校長先生か？

校長 なんだ、その話か。いかにも。演劇部を廃部にすると言ったのは私だ。

加藤

校長そうか。君が演劇部の三年八組六番加藤あやと、か。（降りてきて）
お願いとは？

加藤 演劇部を廃部にするのはやめてください。

校長どうしてかね？

加藤 どうしてって、自分の所属している部活を守るのは当然でしょう!? そんな
たり前ですよ！

校長 なるほどなあ。なら、部員がたった一人しかいない部のせいで、先生の負
増やすという、まったく割に合わないことをやめさせるのも当然かつ当たり前
だろう？

加藤 それは...違いますっ.....。だってそれは生徒の気持ちを考えてないじゃな
すか！

校長 そういう君だって、自分のことしか考えていないのではないかね？教師の
さが君にわかるのか？

加藤 それは.....で、でも.....先生は生徒の味方じゃないですか！

校長確かに先生は生徒の味方であらねばならない。

加藤 なら.....。

校長 だが、それはあくまでそれが正しい道だったらだ。

加藤 校長先生は演劇部を続けることが正しくないと思ってるんですか。

校長 いいかね、君。世の中の正しい正しくないというのは極めて客観的なもの
だよ。例えば今回、君一人のために先生に負担を増やして、もし先生が倒れた
なる？ 困るのは誰だ？ 授業を受ける生徒で、その親で、また他の先生だ。君一
わがままで多くの人たちが困ることになるかもしれんのだよ。

加藤 でも.....。

校長 私は生徒を私の命よりも大事に思っている。だからこそ、求めるのは生徒
しい道で幸せになることだ。君の行動は、他の生徒を困らせる可能性がある。こ
ない道を選ぼうとしている生徒は、正しい道へと戻してやらないといけない。こ
局をみるって言葉を知っているか。まあ、知らないかもしれんがな。私とて苦
折なんだ、ここはわかってもらわんとな。

加藤嫌です。

校長 君、私だって何も演劇部が嫌いと言ってるんじゃないんだ。私は学校全体
めを思って.....。

加藤 だからその理論が気に入らねえ！

校長

加藤 ふっざけんな！ あんたの命よりも重いってんなら、たった一人助けを求め
生徒をあんたが救ってみせろよ！

校長 君、言葉遣いがなっとらんね。目上の人と話すときは.....。

加藤 あっ.....失礼しました。.....じゃあ校長先生、一つ賭けをしませんか？

校長 か、賭け事はいかんよ賭け事は！

加藤 別に金をかけようって言ってんじゃないんですよ。

校長 ではいったい何をかけるのかね？

加藤 俺がこの賭けに勝ったら演劇部の廃部を取り下げてください。

校長 私が勝ったら？

加藤 校長先生が勝ったら、演劇部の廃部を甘んじて受け入れます。

校長 そんなことを言っていいのかね。まあ、何をやる気か知らんが、君がそこ言うなら、私としても生徒の思いを汲まないわけにはいきまい。で、いったいを...

加藤 ありがとうございます。では、少し準備がありますので。

校長 準備？。

加藤は一旦上手にはけ、三脚付きのビデオカメラを持って再び入ってくる。

加藤はビデオカメラを下手袖に設置する。

校長 君、それはなんだね？

加藤 いえ、負けた後でしらを切られても面倒なんで。要は証拠ですよ、証拠。映画部の人と交渉して借りたんです。映画部は熱いドラマを撮りたいって言うんです。Win-winの関係ってやつですね。

校長 そうか。.....ん？君、予めと言ったか？

加藤 フッフッフッフッフッフ、やっと気付きましたか？ここまでぜーんぶ俺の通りです。そして、俺が用意してきたのはこれだけじゃありません。

軽快な音楽が流れ出す。

校長 な、なんだね!?

加藤 これも放送部に頼んでおいたんですよ。これからする勝負に必要なだったのももちろん、予め、ね。

校長 君、まさか全部仕組んでいたのかね!?

加藤 もう遅いですよ、チェックです、校長先生。そして、これでチェックメイトだ。.....演劇部部长、加藤あやとは、あなたに、ラップでの勝負、つまりMCノを挑みます。

校長 ラップ、バトルだと？

加藤 ルールは簡単。曲に合わせてラップを刻み、どちらか一方が答えられなくなったら負けです。覚悟はいいですか（と、言って校長にマイクを渡す）。

校長 ち、ちょっと君！

音楽が変わる。

加藤 じゃあ、俺から行きますよ。

俺が出す校長に挑戦状

ここが俺とお前の戦場

お前朝から入れ歯の洗浄

校長やってること本末転倒

校長 自分で「転倒」？っていうの受験生

ていうか勉強せい！顧問も異論ねえ

私、君負け認めるまで帰せんぞ

まあ私が勝つ100%

加藤 廃部にすんなよ演劇部
俺に負けそうなお前はどんな気分？
勝負事に100パーなんてねえ
日毎に老いてくお前はんばねえ

校長 君は老いる前に置いていかれるおいしいところ持ってかれる
時代は甘かねえんだラップできる位で調子のんな
それもわかんない奴には容赦ない余裕無い
消去する無駄な部活君の願いはもう途絶える

加藤 やめろ廃部、俺の青春
えっとーあー俺のモットー
愛をもっとじゃなくてえー……えーっと

校長 その程度か？もうやめだな
そうか、いいか、そうだ、あきらめが肝心だ
君が出した挑戦状
勝者はそう私、校長！

加藤 えーあー……(インストだけ流れ何も言えない)
加藤、崩れ落ちる。

加藤 ……。
校長 勝負ありのようだ。約束通り、演劇部は廃部に。異論はないな？
加藤 ……どうして。
校長 これしきのことができないで、高校の校長は務まらないだよ。
加藤 ……。
校長 ……用が済んだならもう出て行きたまえ。私も忙しいんでな。

校長はける。
加藤はその場でひざまずいている。
相馬が出てくる。

声 相馬、おはよう。
相馬 お、おはよう。
声 今日さ、前にやった日本史のプリント持ってきたよ。線引いてあるところ
で出すって先生言ってたから。
相馬 あ、ありがとう。
声 おはよう、相馬！ そうだ、今日、昼メシ一緒に食べないか？
相馬 う、うん。いいよ。
声 ところで体育大会のエントリーだけど、相馬は何がいい？
相馬 あ、いや…。何でもいいよ。
声 じゃあ、綱引きでもいいか、あそこ人手が足りないんだ。
相馬 あ、わかった。

声 あ、いかさま野郎の加藤だ。映画部のDVDみたげ、無様だったなあ。
加藤 うるせえよ！お前ら何も知らないくせに！うぜえんだよ！
声 でもさ、いきなり不意打ちみたいな真似して負けるとかダサいよね。ア、
ハハハハハ。

声 もっかい見ようぜ、加藤の負けラップ
声 負けラップじゃなくてダサラップだろギャハハハハ。
加藤 なんでお前ら動画持ってるんだよ！ 消せよ！
声 ダサラッパーが何か言ってるぜ。よかったじゃん。人気者になって。
加藤 やめてくれよ…もうやめてくれよ！

声 相馬ってさ、紙飛行機の人なんだって？ 今度作り方とか教えてくれよ。
声 てかさ、ホントマジで知らなかったよ。相馬がそんなすごいヤツだった。
て。。
相馬 でもそんなに大したことないって。好きでやってただけなんだ。この
果だってたまたまだよ。
声 いやあ、でも大会で表彰台だろ。やっぱスゲエよ。
相馬 そ、そうかな。
声 今度また大会とかってあんの？ もし出るんだったら頑張れよ。
相馬 うん。ありがとう。
声 めっちゃ自信満々に言ってたよな、ここまでぜえ〜んびゅ予定どおり。
声 何がしたかったのか全然わかんねえわただウケるだけ。
加藤 俺は、俺は何で負けたんだ。
声 恥ずかしい。
声 負け犬だ。
声 残念演劇部。
声 いかさま野郎。
声 調子乗ってるよね。
加藤 もういやだ、もういやだ、もういやだもういやだ！
校長 どうしてかね？
声 ダサラッパーの加藤くーん。
声 そもそもなんでラップで勝負とかしようと思ったの？ カッコイイとで
たの？
加藤 なんてそんなこと言うんだよ…ああもう無理だ。もう無理、もう無理
う無理。
校長 先生は生徒の味方であらねばならない。
声 いかさま野郎。
声 勉強しろよ。
声 つまんない。
校長 それはあくまでそれが正しい道だったらだ。
加藤 あああ(精神が崩れる)。
校長 君一人のわがままで。
声 あの負け犬の加藤？ 知ってる～
声 見てられないわ～。
声 痛い痛い。
校長 約束通り、演劇部は廃部。
加藤 あああ……
校長 ……用がすんだなら出て行きたまえ。
加藤 もうなにもかも嫌だ。なにもかも！

(声は後半になるほど重なり合い加藤の混乱を表す。加藤と校長の声は独立して
えるがバックに声が入ってごちゃごちゃする感じ)

相馬と加藤がそれぞれ照らし出される。

相馬 紙飛行機大会のおかげで、俺には友達ができた。
加藤 校長との勝負せいで、俺はみんなから軽蔑された。
相馬 みんなと話すことが、一番の楽しみになった。
加藤 みんなと話すことが、一番の苦痛になった。
相馬 みんながいるから、また学校に通おうと思えた。
加藤 みんながいるから、学校には行きたくなくなった。
相馬 誰でも取り柄の一つくらいは持っている。
加藤 しかし、それを武器に変えられるかは自分次第。
相馬・加藤 それで、やっと気づいた。
相馬 自分の世界は
加藤 いたも簡単に
相馬・加藤 色を変える！

相馬と加藤はける。椎名先生が入ってきて、加藤に電話をする。

椎名 おはよう、加藤。

椎名 調子はどうだ？夜とかちゃんと眠れているか？

椎名 でき、授業日数の件なんだけどな。

椎名 ああそうか。でも、大切なことだからな。

椎名 卒業を目指すとなると…。親は何て言ってるんだ、加藤。

照明溶暗

椎名 加藤……。

照明溶明

相馬が戻ってくる

相馬 先生、まだ掃除終わってないん……って何してるんですか。

椎名 えっ、あ、ああ。

椎名、持っていたDVDを机に置く

相馬 ああ……じゃないですよ。掃除終わったんなら運ぶの手伝ってください。運ぶのすごく大変でしたよ。これをあと何回もやるのかって考えたら、あの雑誌を落としたらどんなに楽かって思いますよ。

椎名 いやあ相馬。実は……、まだやってないんだ、掃除。

相馬 (ガックリ溜息) 頼みますよ先生。もう、指に紐が食い込んでめちゃ痛いのをこらえてやっと運んできたっていうのに、その間先生はいったい何してるんですか。まさか！また何か見つけてしまったんじゃないですか。そういうことね。もう勘弁してください先生。

椎名 別にそういうんじゃないって。さて、掃除掃除っと。

相馬 じゃあ僕も手伝いますよ。先生だけにするとサボるかもしれないですね。

椎名 俺はサボってたわけじゃ……。

相馬 いいですよ。とにかく早く掃除を済ませて、二人で、雑誌を運びまし

二人、掃除をする

相馬 先生……、僕、卒業なんですよね……。やっぱこれって先生のおかげ、
もしれませんね。

椎名 なのかもってなあ。

相馬 冗談ですよ。先生には感謝してます、一応。

椎名 ったく素直じゃないな……。でもさ、実際は紙飛行機のおかげかもな。

相馬 はい。紙飛行機が好きでホント良かったです。でも、まさかコレきつ、
航空工学勉強したいって思うようになるなんて、想像もしなかったですよ。

椎名 好きこそものの上手なれ、って言うだろ。どんなに辛くても、好きな
らばきつと乗り越えられる。だから頑張れよ、浪人生活も。

相馬 はあ……浪人なんですよね……。

椎名 あれだけ学校休んでたんだから、仕方ないだろう。

相馬 でも、一年間受験勉強やり続けるって、どういう感じなんですかね。
安です。

椎名 いいじゃないか。浪人も進路も自分で決めたことなんだし。航空工学、
相馬に合ってるって。

相馬 まあ、頑張ります。

椎名 さ、掃除終了。いよいよ雑誌運びの旅に出るか。

相馬 その旅はホントに辛いですよ。あー、やっぱこの雑誌、全部窓から落
せんか。そして、下で拾ってゴミ捨て場まで運ぶ方が絶対楽ですって。とにかく
指がちぎれるってくらい痛いんですよ。

椎名 下に誰かいたらどうするんだ。冗談じゃ済まされんぞ。航空工学を学
ヤツにあるまじき発言だな。

相馬 じゃあ……紙飛行機ならいいですよ。

椎名 紙飛行機？ どういうことだ。

相馬、捨てようとしていたハガキを一枚取る。

相馬 この紙で紙飛行機作って飛ばします、あの窓から。

椎名 なんだよ突然。いくら紙飛行機好きだからって……。

相馬 これが僕の高校生活のラストフライトです。いろいろあった高校生活、
してどれだけ遠くまで旅立てるか、ちょっとやってみたくなりました。

相馬、紙飛行機を作りだす

椎名 お前なあ……、こんな紙じゃ遠くまで飛ばすのは無理なんじゃないか、
に万が一に誰かいて当たったらどうするんだ。たとえ紙だとは言っても急に
たら状況次第では……。

相馬 雑誌みたいに急には落ちないから大丈夫ですよ。それに、いざという
『逃げろー』って大声出せばいいし。

椎名 はあ……。本気かよ。

相馬 もちろん。さあ、完成しました。どうです、意外にいい感じですよ。
や、いきますよ。

椎名 …よし、こうなったら思いっきり飛ばしてみろ。そして新たなる世界
立ちだ。

相馬 (ボソッと) 思いっきりやるとかえって飛ばないんだけどな。
椎名 つべこべ言わず、さあ！

相馬、窓から紙飛行機を飛ばす 思ったより飛んでいく
二人、飛んでいく様子を見つめる

椎名 おおっ、結構飛ぶな.....。
相馬 もっと飛べ！もっと遠くまで行け！
椎名 相馬？
相馬 加藤君の分も、ずっと飛び続ける！
椎名 加藤って、相馬お前.....。

沈黙 紙飛行機着陸

相馬 先生、さっき加藤君のこと言っていましたよね.....。
椎名 ...聞いてたのか。
相馬 聞いてたっていうより聞こえたって言った方が正しいです。.....加藤業無理なんですか。卒業できないんですか？
椎名 どうか。結局はアイツ次第だから。
相馬 明日学校来たら、卒業式には出れるんですか。
椎名 いや、そういう訳じゃ.....。
相馬 そうですか.....。でも僕、加藤君は大丈夫な気がするんです。だって卒業できるんだから。
椎名 そうだな.....。そうだといいな。

二人それぞれ両手に雑誌の束を持って移動しようとする

椎名 なんだ、大して重くないじゃないか。大げさなんだよ。指がちぎれるて。
相馬 運んでみればわかりますよ先生、あの地獄の苦しみが。
椎名 苦しみを乗り越えたら、自分をほめればいいんだって。
相馬 はいはい。

二人雑誌を運んでいく
机にはDVDが置かれたまま

=

引用...新装世界の文学セレクション36/02シェイクスピアII
訳者 福田恆存 発行者 嶋中行雄 発行所 中央公論社
※劇中のラップ使用については、CD発売元(戦極MC)より許可を得ていま

[[地区大会出場作品](#)] [[表示](#) (559)] [[画像](#) (0)] [[コメント](#) (0)] [[参考リン](#)

Trackback URL :

<http://koukouengeki.net/modules/chalog/tb.php?id=22>

[参考リンク](#)

